

平成 31 年度研究プロジェクト研究活動報告

研究種別	■自主研究 18	公益目的事業 19
主査名	大森宣暁 宇都宮大学大学院工学研究科球環境デザイン学専攻教授	
研究テーマ	夜の生活活動を支え地域活性化に資する都市と交通のあり方に関する研究	
研究の目的： 本研究は、人口減少・少子高齢社会において、全ての人々が安全・安心・快適に夜間の自宅内外の生活活動に参加でき、生活の質を向上させる環境整備に向けて、我が国の社会的文化的特性を反映した都市と交通のあり方について、幅広い視点から検討を行うことを目的とする。		
研究の経過（4月～3月）： 地方都市の衰退する歓楽街の活性化に関する研究の一環として、昨年度に引き続き宇都宮市を対象に、街路の照明や景観の改善が一つの重要な要因であるとの認識から、街路の照度・色温度の計測を行うとともに、街路に虹色の照明を設置することによる来街者増加の可能性を検討する実験を行った。また、宇都宮市の歓楽街に立地する複数の飲食店を対象にバリアフリー調査を実施した。さらに、地域コミュニティにおけるスナックの役割について議論を行い、京都の歓楽街の都市デザインに関する研究会を開催した。そして、東京都市圏居住者に対して、飲酒活動の実態と意識に関する Web アンケート調査を実施した。		
研究の成果（自己評価含む）： 街路照明実験期間中に来街者の意識調査を行った結果、街路照明の工夫は衰退する歓楽街の雰囲気向上には貢献するが、来街者の増加には必ずしもつながらない可能性が高いことがわかった。飲食店バリアフリー調査の結果、特に車いす使用者が店舗を利用する上で、駐車場、店舗入り口、通路、客席、トイレ、店員のサポート、そして情報提供が重要であることを確認した。京都の歓楽街に関しては、通りの品格と賑わいを創出するデザイン誘導の重要性を改めて認識した。東京都市圏居住者に対する Web アンケート調査から、性・年齢、居住地等の個人属性と自宅内外の飲酒活動の選好や満足度向上のための都市・交通に関する要因等を明らかにした。		
今後の課題： 地方都市の歓楽街については、引き続き、地元関係者とともに今後目指す街の姿について議論を行った上で、歓楽街活性化の可能性について検討を行うことを課題としたい。また、夜の都市や交通に関する海外・国内の文献・資料のレビューや関係者へのヒアリングを引き続き進め、地域コミュニティにおける夜の役割、夜の活動が人々の健康・幸福に与える影響という視点から、夜の生活活動の意味や位置づけを探求していきたいと考えている。		